

■有吉佐和子 “才女”として登場、「紀ノ川」で総決算後、社会問題を小説化して次々とベストセラー生むも、早世。

ありよしさわこ

満州事変・1931= 和歌山市生れ。父は東京帝国大学卒の横浜正金銀行社員で、当時はニューヨーク支店勤務。

芥川直木賞始1935= 4歳：父が帰国。東京へ転居。

日中戦争始・1937= 6歳：父の転任でジャワのバタビアへ一家で移り、日本人学校へ入学。

大政翼賛会・1940= 9歳：

日米開戦・1941=10歳：帰国し、東京下谷の根岸小学校に転入。

創価学会検挙1943=12歳：小学校を卒業、都立竹台中学に入学。

敗戦・1945=14歳：空襲で家を焼かれ、静岡を経て、和歌山に疎開。県立和歌山高女に転入。

新憲法施行・1947=16歳：上京し、光塩高女に転入。カトリック受洗。

極東裁判決・1948=17歳：光塩高女を卒業。都立の新制高女に転入。

三大事件・1949=18歳：新制高女を卒業し、東京女子大学文学部英米文学科に入学。

朝鮮戦争始・1950=19歳：父が脳溢血で急死。

独立回復・1951=20歳：*短期大学部英語科に移る。歌舞伎研究会に属し、「演劇界」の懸賞論文に続けて入選し、認められる。

マーデー事件・1952=21歳：卒業して、「演劇界」の嘱託となる。以後、インタビューなどの職務をこなす。

TV放送始・1953=22歳：「白痴群」同人となる。

自衛隊発足・1954=23歳：「白痴群」に「洛陽の賦」を発表。踊りの吾妻徳徳との付き合いが始まる。「新思潮」同人となる。

55年体制始・1955=24歳：「新思潮」に「盲目」「ぶちいぬ」を発表。

国連加盟・1956=25歳：*「地唄」が「文学界」新人賞候補、さらに芥川賞の候補となり、【文芸春秋】に転載される。以後、各誌に、「キリクビ」、舞踊劇「綾の鼓」、人形浄瑠璃「雪狐々姿湖」、「まっしろけ」、「白の哀悼」を発表。

なべ底不況・1957=26歳：「処女連禱」「断弦」を刊行。「線と空間」、「赤猪子物語」、「白い扇」(直木賞候補)、「榎山節考」の脚色「美つつい庵主さん」を発表。NHK放映の「石の庭」が芸術祭奨励賞。テレビ番組レギュラー出演。

インスタントラーメン・1958=27歳：「更紗夫人」「花のいのち」「げいしゃわろつ・いたりあの」「海鳴り」「江口の里」「人形浄瑠璃」を発表。「ずいひつ」ほかを刊行。新作浄瑠璃「ほむら」が芸術祭文部大臣賞。

美智子妃・1959=28歳：それまでの作家生活の総決算として「紀ノ川」を発表・刊行。ニューヨークのカレッジへ留学。

安保闘争・1960=29歳：短編集「祈禱」、「私はわすれない」「新女大学」。ローマ・オリンピック取材、中近東を経て帰国。

タイタイ病始・1961=30歳：「香華」「女弟子」「閉店時間」連載。「三婆」「ほむら」刊行。対談で神影に会い、新居に独立後、

全国総合計画1962=31歳：淡交社常務塚本史郎とした婚約を破棄して、神影と結婚。中国の招きで訪中。

TV宇宙中継始1963=32歳：長女誕生。「助左衛門四代記」「有田川」「仮縫」、「香華」が小説新潮賞。

東京オリンピック・1964=33歳：「非色」「ぶえるとりこ日記」。事業に失敗した神影と離婚。

大学紛争始・1965=34歳：中国作家協会の招きで中国へ。「一の糸」、

いざなぎ景気1966=35歳：「日高川」、

美濃部都知事1967=36歳：「華岡青洲の妻」がベストセラー2位となり、

震ヶ関ビル・1968=37歳：*「海暗」が文芸春秋読者賞。「出雲の阿国」が婦人公論読者賞。文化人類学者の畑中幸子の誘いでニューギニア奥地へ、「女二人のニューギニア」連載。マラリアになる。「不信の時」はベストセラー8位、

全共闘ピーク・1969=38歳：「芝桜」「孟姜女考」「二代の生けり」「針女」連載。

大阪万博・1970=39歳：「出雲の阿国」が芸術選奨文部大臣賞と続く。

日中国交回復1972=41歳：「ケイトンズヴィル事件の九被告」を共訳して発表。「恍惚の人」がベストセラーになる。中教審委員。

石油ショック1973=42歳：

角栄金脈辞任1974=43歳：「母子変容」。参院選で市川房枝、紀平梯子を応援。金芝河事件で日本ペンクラブを脱会。

ケアンズ事件1975=44歳：「鬼怒川」。データを無断借用と学者からクレームを受けるも、「複合汚染」はベストセラー2位。

田中角栄逮捕1976=45歳：

JALハイジャック・1977=46歳：過労のため入院。「青い壺」、

成田衝突・1978=47歳：翻訳のため渡仏。取材のため訪中。「悪女について」、

革新大敗北・1979=48歳：ベストセラーになった「和宮様御留」で毎日芸術賞。

・・・・・・1981=50歳：一年間の取材を経て、「日本の島々・昔と今」を刊行。

中曽根内閣・1982=51歳：「開幕ベルは華やかに」、*文学座創立45周年記念で有吉佐和子「ふるあめりかに袖はぬらさじ」を上演後、

・・・・・・1984=53歳：訪英。急性心不全で没した。